

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173200193		
法人名	(有)ラック・ライフ		
事業所名	グループホーム喜楽(あい)		
所在地	岐阜県瑞穂市只越302-2		
自己評価作成日	平成27年12月15日	評価結果市町村受理日	平成28年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2173200193-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2173200193-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きてこられた人生を大切に、その人らしく毎日を送って頂きたい。自由に暮らす日々の生活の中で、役割を持って笑顔で健康で暮らしていただけるよう支援しています。</li> <li>・家庭的な雰囲気、一日が個々の利用者さんのペースに合わせた生活になるように働きかけている。また、笑顔の多い暮らしができるように支援している。</li> <li>・日常生活の場である事を意識して、利用者さんの得意とする事を行ってもらい、活力のある日々を送れるように意識している。</li> <li>・利用者、家族の思いを大切にし、信頼関係を築けるよう努力している。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、岐阜県内最初のグループホームとして、2000年に開設し、2004年に現在地に移転している。以来、多くの経験を重ね、利用者により優しい建物の構造や使いやすい備品を取り揃え、利用者の自由と安心と、楽しい暮らしを支えている。運営推進会議には、利用者全員と地域の各団体の代表が参加し、利用者からは「こんなに多くの方が私たちのことを考えてくれる」と感謝されている。事業所は、地域の高齢者と行政をつなぐ役割を果たし、利用者との信頼関係を築きながら、各職員の家庭環境にも気配りをしている。職員のモチベーションを高め、ゆとりと工夫で、利用者が心豊かに、その人らしい生活が送れるように取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(あい)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	創立時より一貫した理念を折々に話し合い、時には見つめ直し、常に意識して日々のケアに繋げている。	理念は、「地域の中で、自由と安全と楽しみを持って暮らしを」と掲げ、利用者が「求めていること、行いたいこと」が実現できるように支援をしている。職員間の連携を強めながら、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方達によるボランティア、コミュニティ行事への参加、幼稚園、保育園との交流を日常的に行っている。	運営推進会議には、地域の役職者の参加が多いことから、グループホームの事業内容や役割りについて、地域の理解を得ることができている。地域の行事への参加や、幼稚園、保育園との交流は、日常的にあり、地域住民とも親しいつきあいをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コミュニティ及び、大小の会合にも積極的に参加して、病気としての理解、又、認知症の方々への理解よ支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	隔月に事業所内にて会議が行われ、利用者も参加して活発な話し合いがなされている。時には利用者さんよりのお叱りの声もあり、向上に取り組んでいる。	利用者全員が、運営推進会議に参加をしている。参加した利用者が、「皆さんが私たちのことをこんなに考えてくれる」と、感謝の言葉を発している。地域高齢者の現状と課題も話し合い、事業運営やサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは常に連絡を取り合い協力関係を築いている。	市の担当者とは、日程を調整し、運営推進会議に出席してもらい、介護保険の改正点や今後の動向についても相談をしている。また、管理者は、市主催の交流会や意見交換会に参加し、情報を得るなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束「0」の理念を常に意識して日々のケアに取り組んでいる。安全で自由に暮らしていただけるように、常に見守り、生活の中の工夫に取り組んでいる。	身体拘束ゼロを常に意識し、日々のケアに努めている。排泄支援、服薬などの場面で、身体拘束につながっていることはないか、また、利用者には不安や混乱を与えていないか、毎月のミーティングで、経過を振り返り、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員間で常に話し合い、言葉の暴力も含めて虐待に繋がらない様、小さな事も見過ごす事のないように注意を払っている。		

岐阜県 グループホーム喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	職員は制度等について十分な話し合いは持てておらず、今後学ぶ機会を持ち支援の活用に生かしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接等、施設等の見学、契約・改定等、書面をもって説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月、運営推進会議を開き、地域・ご家族・行政の多方面の参加により、報告や意見交流を行い反映させている。又、行事等にも参加いただき、ご利用者さんの様子も見ていただいたりして、触れ合う場を設けている。	運営推進会議や家族会で意見を交換し、訪問時やケアプラン作成時にも、話し合いの場を設けている。家族とは、なんでも気楽に言い合える関係を築き、意見や要望があれば、出来るものから運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニットミーティングにおいて、現状を踏まえた話し合いや今後の展開等を話し合っている。又、全体としてのリーダー会議により、更に事業所としての共通理解が図れている。	管理者は、業務に入る前に日々の日課として、各部署を回り、職員との信頼関係作りに努めている。職員の意見や提案を、ミーティングで取りまとめ、さらに、リーダー会議で検討を加え、運営やサービスの改善につなげている。	職員からの運営に関する意見や提案が、より多く表出し、目標が達成できるよう期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間等、配慮されている事が多く、働きやすい現場であるが、年間休日等不明瞭なところもある。明確になるとより安心できる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会を開き、ロールプレイ等学ぶ場がある。又、現場研修として、ユニット間交流研修により各自向上できる。ケア等現場での学びの場は実践に生かせる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に同業者との交流の場あり、勉強会、相互研修を通じてサービス水準の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安が和らぐよう、出来るだけ関わる時間を持って、本人の思い、状態を把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所直後等に積極的にご家族の思いを聞き、プランにもご家族の思いを反映できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけ早く環境に馴染めるよう、何を必要としておられるのかを、全職員で共通理解するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常では、見守りや声掛けをしながら一緒に火事を行い、行事では、来客を迎える準備や片付けを一緒に行う等、共同生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子をこまめに伝えたり、相談をする等、離れて暮らしているが、家族が介護者でもあるとの意識を忘れないような関わりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親類の訪問が継続するよう、来所時には一緒に楽しめるような工夫をしたり、手紙や電話を取り持ちたりしている。	老人会のサロンや地域行事に参加をし、馴染みの人と交流をしている。また、親戚や友人の訪問も多く、併設デイサービスの利用者との交流もある。運営推進会議には、利用者全員が参加をし、出席者との馴染みの関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の利用者の為に何かをされた時は、感謝の言葉を代弁したり、話が途切れそうな時は職員が間に入り、潤滑油になるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用されている頃よりコミュニケーションをとり、ご本人が話しやすく、又、ご家族等が訪問しやすい雰囲気作りを心掛けている。退所時には、現状の生活が維持できるように細やかな情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	色々な場面でかかわり時間を持ち、本人の直接の言葉を聞くよう努めている。24時間に渡って本人の細やかな記録を残し、本来の人の柄や環境等と照らし合わせ、思いを汲み取るよう努めている。	入居前のアセスメントで、本人情報を職員間で把握している。入居後は、様々な場面で、利用者からゆっくり話を聴きながら、思いや意向を把握している。それらを職員間で共有し、その人らしい暮らし方につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	提供された情報を読み込む以外にも、本人、家族と馴染みの関係を築きながら、新たな情報を得るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日を通した記録を残し、関わる職員が全員把握できるようにする事により、継続的なサービスの提供をし、本人の好きな事、できる事を見つけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的、又は必要に応じて担当者会議を開き、本人、家族、管理者や現場の職員等関係者で話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。また、日常の関わりの中で本人や家族の思いや意見、状況に変化がある時は迅速な対応が出来るよう努めている。	担当職員が原案を作成し、サービス担当者会議で、家族から意見や要望を聴き、関係者の意見を踏まえ、介護計画を作成している。利用者の状態の変化に応じて、見直しを行ない、本人・家族の意向に沿った計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉や様子等、毎日の記録に残すようにして、特に気になる事等は職員全員が目を通すよう連絡ノートに書き記している。月1回、又は必要に応じてモニタリングし、実践の有無や効果による変化に合わせた介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	代行受診や急な外出、外泊の申し出等にも柔軟な対応を心掛けている。併設のデイサービスへ行く等して楽しめるようにしている。		

岐阜県 グループホーム喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭り、芋煮会などを地域ボランティア、ご家族と共に行ったり、幼稚園児との交流も尾かになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、かかりつけ医に、その他の場合は、本人ご家族に相談し対応している。	個々に、かかりつけ医を継続している。かかりつけ医への受診は、原則、家族の対応である。緊急時は、協力医と連携し、適切な医療を受けられるよう支援し、家族には、その情報を速やかに伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に相談、報告できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院治療が必要になった場合は、ご本人、ご家族、病院関係者の方々と相談や情報の交換をして早期退院に向けて努力をしている。また、日頃より、主治医と事業所とのより良い関係を築けるように、話し合い、相談の場がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	お元気な段階の頃より、ご本人の声に耳を傾け、ご家族の思いの変化にも寄り添いながら、医療関係者との連携に努め、事業所としての出来るだけの支援をしている。	入居時に、重度化や終末期の指針を説明し、同意を得ている。状況の変化に伴い、関係者が話し合い、方針を共有している。終末期は、医師と家族が話し合い、事業所として、出来る限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは目に付くところに整備されているが、急変や事故発生時に備えて、応急手当の技術や初期対応の実践力は身に付けられていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1度の避難訓練に、年2回の消防署立会いの訓練をしている。当日勤務の職員は参加するが、全員が避難方法を身に付けられていない。	消防署の指導のもと、夜間想定を含めて、火災訓練を実施している。さらに、自主的な避難訓練を毎月行い、対応力の強化を図っている。地震や水害対策についても、過去の事例から学び、備えている。	事業所での訓練以外にも、地域で実施する防災訓練に参加することで、地域との協力体制が、さらに深まるように期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重するように職員一人一人が心掛けてはいるが、慣れあいになり、時として快くない声掛けや対応をしてしまうが、会議などで話し合い、利用者一人ひとりを理解するようにしている。	利用者一人ひとりを、人生の先輩として敬い、常に自尊心を損ねない言葉かけを徹底している。会話をする時は、ゆっくりと話し、穏やかな対応を心がけている。職員間で気づいたことは、その都度、話し合い、より良いケアとなるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からの提案のほうが多くなっているが、出来るだけ利用者に決めてもらえるようにしている。思いや希望に添えないときもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にしたいと思っているが職員の都合を優先させてしまっている時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後、ドライヤーをかけるかけない、髪分け方など利用者に決めてもらっている。洋服については、ある程度の枚数を出し、選択できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食材を切ったり、盛付をし、食事と一緒にしている。片付けも一緒にしている。	食事は、職員も一緒に食べ、美味しさを共有している。味付けや調理方法など、利用者の経験から学び、それを、食卓の楽しい話題にしている。盛りつけや片付けも、利用者が自然に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合った食事量にし、形状も工夫している。水分量は特に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ではないが、就寝前必ず口腔ケアをしている。		

岐阜県 グループホーム喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チャートなどにより、排泄のリズムを把握して声掛けし、出来るだけトイレでの排泄、パット交換などで失敗を防いでいる。	排泄の自立を目標にしている。個々の排泄リズムを把握し、昼夜共に、声かけ誘導を行ない、トイレでの排泄につなげている。常に、余裕をもった早めの対応で、失敗を減らし、心地よく過ごすように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品や水分を充分摂取していただいたり、散歩やラジオ体操などを行っている。便秘しやすい方は医師の処方した薬を脳腕貰っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事前に入浴希望時間などを聞き、出来るだけ希望の時間に入れるよう支援している。洗身などの介助がいる方、見守りだけの方と、状態に応じ対応している。	入浴は、本人の希望や状態に合わせ、柔軟に対応し、拒否の人には、タイミングと促し方を工夫している。入浴介助は、コミュニケーションの大切な場と捉え、個々の習慣に添って支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ミーティングや記録などで、各自の生活リズムを知り、出来るだけその方の行動にあわせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋などを読み、薬の目的や副作用を知り、現状に合った処方をしてもらうなど、都度の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フェースシートやミーティングで得意な事、好きな事を知り、ケアプランに上げ、継続できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩やイチゴ狩り、幼稚園の行事参加など、また、ご家族との外出などその時に応じ対応している。	ウッドデッキでの外気浴や、庭の散歩を日常的に行っている。希望者は、事業所周辺を散歩しながら、季節感を味わっている。また、幼稚園の行事に参加したり、年間行事では、家族の協力を得て、季節ごとの外出支援に取り組んでいる。	



岐阜県 グループホーム喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃は職員が預かり金として管理しているが、ご本人が買いたい物がある時には一緒に買物に行き購入してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	意思を尊重し、葉書や手紙を出したいといわれる方には、職員が葉書を用意している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、廊下にご本人の絵や書、共同制作した作品などを飾ったり、時には玄関の花を行けていただいている。又、夏は窓に日よけ用すだれをかけている。秋には鈴虫の世話をしている。	雪見障子のある和風の建物は、利用者にとって、落ち着いた家庭的な生活環境となっている。浴室、トイレもスペースにゆとりがあり、使いやすく設計されている。共同作品や季節の花を飾り、寛げるソファやウッドデッキで、居心地よく過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキに出て庭を眺めたり、スケッチをしたりとご自分の時間を楽しんでおられる。また、居間の長いすに座ってご家族の話しなど和やかな時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品や趣味の編み物の作品などを飾り、時には音楽を聴きながら、それぞれがご自分らしく過ごしておられる。	居室には、思い出の作品や家族の写真を飾り、好みに配置をしている。利用者は、使い慣れた馴染みのものを持ち込み、自分の部屋らしく、安らぎのある居室づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足の不自由な方でも台所仕事ができるように机や椅子が配置されており、その日の体調にも配慮しながら対応している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173200193		
法人名	(有)ラック・ライフ		
事業所名	グループホーム喜楽(きらく)		
所在地	岐阜県瑞穂市只越302-2		
自己評価作成日	平成27年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(きらく)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目に入りやすい場所に掲げてあり忘れないように努めている。しかし、時に忘れてしまったり疎かになってしまった時再認識するよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物の出かけることで地域の中で暮らし関わりを持つようにしている。また、近隣の保育所や幼稚園の子供たちは訪問してくれたりこちらから行事に訪問したりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解やケアの向上を目視し勉強会など開いて職員の育成に努めているが、地域へ向けての発信不足なため今後の課題である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	課題や議題について話し合いをし意見を頂くことで今度はそれをミーティングで話し合いながら実践活かせつようにしている。また、その結果報告も出来るようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらう等し、日頃の様子を観ていただきながら協力関係を築くよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が見守りできる状況を考えながら玄関のカギは日中はかけずに対応している。また、身体拘束をしない事の理解をすることでケアに繋がれるよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で尊厳について考えることで未然に防ぐことが出来るよう努めている。言葉使いや声のトーン等も意識して少しでも虐待に繋がらなる要素が減らせるよう努めている。		

岐阜県 グループホーム喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	制度の必要性や理解はしているがそれについて学んだり、職員間で話し合う等は不足している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに対する考えや方針、取り込みをお伝えし理解を得るようにしている。また、日々関わることで変化等が見られた時は家族と話し合っ、方針や可能な対応を考えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の連絡等でいつも意見を言っていたけように伝えその意見を皆で話し合いながらケアに反映できるように取り組んでいる。また、運営推進会議などで外部者の耳にも入るようにし施設の向上に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で職員の意見を聞ける場を設けるようにしている。また、日々のコミュニケーションで思いを把握磨るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績を評価し度の様な思いを抱いているかを把握しながら職員はの働きかけをしている。また、人間関係を把握し円滑なコミュニケーションが取れるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加できるように職員の段階に応じてなるべく多くの職員が受講出来るように計画を立てている。また、本人からの希望にも出来る限り応じている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が外部の会議等に参加し、交流したりネットワークづくりをしたりしているが、職員が同業者と交流する機会が不足している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して気持ちよく過ごせる様に声を掛け合い、見守り、耳を固めて本人に寄り添いながら絆を深めていると思う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望はもちろん、不安材料、思い等、本人が一番いい状態で過ごせる様理解し尊重しあい密連絡を取り合っていると思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が安心出来るという思いをもたれるように少しずつ理解、納得しながら無理をせずに徐々にペースをつかみ周りの環境に対応出来るようにしていると思う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	周りの人との関係をお互いにもちつつ本人が生活 すると言う意識を持たれる様個々の意識、個性を十分理解し知ろうと努力していると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との距離をとりつつも一番関わる職員が日頃の生活リズム、変化、異常等いち早く気づき密に連絡をとり家族、本人との繋がりを支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と関わる中で徐々に理解しており何度となく話しの中に盛り込んでみたりはしているものの実際に家族の方との協力までには達していないと思う。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場として利用者一人一人」の認識の違いがあるもののお互い理解し合っているため職員もそれぞれの個性を活かし上手に利用者を繋げたり、関わってもらったりして場面に応じて無理なく対応してきていると思う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが在宅になった場合も同事業所の居宅支援を通じて支援を継続している。また、施設入所になった場合も本人の情報(身体、生活、参加、環境等)を報告している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向について関心をはらい把握しようと止めることが大切で、把握が困難であったり不確かな場合関係者で本人の視点に立って意見を出し合い取り組む。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ職員が本人や家族等と馴染みの関係を築きながら日々の中でこれまでの暮らしを捉えて行くよう積み重ねる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が利用者を総合的に見つめり目を養いながら、日々の中でチームとして把握に努めていくことが必要で、特に見落とされやすい本人の出来る力、わかる力を暮らしの中で発見していくことに努めているか確認をする。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントとモニタリングを繰り返しながら設定期間毎の見直しはもとより、本人、家族、の要望や変化に応じて臨機応変に見直し本人や家族からの新たな要望や状況の変化がない様でも毎日新鮮な目で確認していく。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人を身近で支える職員しか知らない事実たケアの気づきを生き生きと具体的に記することが大切で、ケアに向けてそれらの情報を共有しながら日々の職員間のケアに活かして行く。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支えるにあたりグループホーの支援だけでなくその場のニーズに合わせ対応できるようデイサービスの利用も心がけている。		

岐阜県 グループホーム喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で情報交換をしながら協力関係を築き、利用者様がより良い暮らしが出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する かかりつけ医 の受診を続け、時には、往診をしてもらいながら適切な医療を受けられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置して、状態変化に応じた支援が上時行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院には、本人、の支援方法に関する情報提供をしている。また、出来る限り早期退院に向け事業所の受け入れ体制を整え病院、家族と検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を踏えて医師、職員が連携をとって安心した最期を迎えられるよう細かく状態を観ながら支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや注意お事項を目のつく所の掲げ常に確認が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に一度避難訓練を行っており、年に1~2回消防署立会での訓練や消火訓練を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊重、プライバシー確保が出来るよう日々業務の上でスタッフ同士で確認、ミーティングの議題に取り上げ話し合いをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の利用者様同士の会話の中から、本人の思いがくみ取れる様に注意を注いでいる、また、自己決定が出来る様な言葉がけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事をされている方は職員のペースに合わせてされていることが多く、一人一人全員のペースに合わせた流れを組むことはあまりできて居ないと思う毎日全員とは出来ないけれど順にでも希望に添った支援ができると思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えることは行えていると思います。衣服の仕度もご自身でされる方には任せてありそうでない方にもご家族が揃えられた衣類を着たりしていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行えていると思います。台所仕事ができる方にはその人がやれ部場所、体制、やれることを考慮して見守り、介助しながらやっていたり、食事も同じものを同じ席にいただきます。その流れにのって会話をもつことも大切だと思っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフ皆で目を配り利用者さん一人一人の合わせた食事形態、飲み物、食器、介助方法を支援していますが運動は出来る時間を少しでもとれるよう努めたい。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員に声かけや介助できていないのが現状です(朝、昼後)声かけは必ず全員に行い、見守り、仕上げ、全介助とその人に合わせた支援をするよう努めています。		



岐阜県 グループホーム喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、一人ひとりに合わせた支援をしている。なるべくトイレでの排泄を心がけ、紙パンツやオムツの使用は必要最低限としている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を確認し、牛乳やヨーグルトを摂ってもらったり、場合によっては個人に応じて薬を服用してもらっている。運動などで身体を動かす事で便秘解消につなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決まっているが、決まりごととせず、希望やタイミングを合わせるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活リズムをつける事により、夜間の眠りにつなげられるよう支援しています。昼寝は自由だが、長くなりすぎないように声掛けはしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用薬を把握し、変更などあった時は連絡ノートに記入して情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴から得意な事、家事などの出来そうな事をして頂けるよう支援している。趣味活動も支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	不定期ではあるが、家族の方の参加も得ながら外出している。		

岐阜県 グループホーム喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大きさを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の買い物でほしいものがある時は、その人の状態に応じて預かっているお金を持ってスタッフと一緒に買い物をしていただいています。また、個々の金銭出納帳を作成して家族の来所時等に確認をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方への電話、手紙の交流あれば希望に沿って支援出来ることをチームで行います。頻回に電話希望されることがある場合には連絡先の都合を聞きスタッフチームで対応させていただく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	晴れた日などテラスに出て、お茶や歌を唄う、歩く事をすすめて行っている。食堂では協同作業を行い、2~3人で散歩に出るなどしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席は一応決めてはあるが、利用者の方の心境に応じて変わっていただくなどしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖房器具や親しい方の写真などであたたかい雰囲気にし、暖かい日には布団を干すなど清潔にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんに出来る家事や台所仕事を工夫して、達成感や役に立っている事を感じてもらっているようにしている。		